

# 展着剤の種類と必要性



JA全農東京  
生産事業部 生産資材課  
**田中 宏典** さん

## 農薬を散布する前に

殺菌剤や殺虫剤、除草剤を散布する時に、作物や病害虫の表面の細かな毛やワックス層(ロウ物質)・キチン質・孢子等が薬液をはじいて、作物や雑草、病害虫の表面に薬液がうまく付着しないことがあります。薬液の付着が不十分ですと、防除効果に影響するほか、薬液だまりによる汚れや薬害の原因となる場合があります。

## 展着剤は薬液の付着性を高めます

展着剤は散布薬液に加用して薬液の付着不良の原因となる表面張力を下げ、付着性を高める補助剤です。展着剤は薬液の拡散性や固着性、浸透性を高め、農薬本来の効果を発揮させます。

### 展着剤のメリット

- 農薬の効果を最大限に引き出します。
- 農薬の使用量を低減できます。
- 散布水量を節約できます。

### 展着剤の分類(機能性)

#### ① 濡れ性を改善する展着剤(スプレッダー)

散布液の表面張力を下げることで湿展性を改善し、低濃度で濡れにくい作物や病害虫への付着性を改善します。

【ネオエステリン、クミテン、ハイテンパワー、Yーハッテン他】

#### ② 機能性展着剤(アジュバント)

スプレッダーに機能性をプラスして、作物表面から内部へ浸み込ませる機能を併せ持ち、濡れ性に作物体内への浸透移行性を高めて農薬の効果を引き出します。【ニーズ】

#### ③ 固着性展着剤(スティッカー)

パラフィンや脂肪酸エステルを主成分にしたもので、作物に付着した薬液を固着させ残効性を持たすとともに、耐雨性を高めます。【アビオン-E、ステッセル】

店頭がない場合は、お取り寄せになることもございますのでご了承下さい。



### 作物の濡れ性と展着剤の加用

- ① 濡れがよい作物(展着剤がなくても濡れますが、付着性を高めるには加用します。)  
ナシ、ミカン、カキ、チャ、トウモロコシ、キュウリ、インゲン、カンショ
- ② 濡れが中程度の作物(展着剤を加用します。)  
トマト、ナス、イチゴ、メロン
- ③ 濡れが悪い作物(左記分類の②、③の展着剤を必ず加用します。)  
イネ、ムギ、ダイズ、ネギ、キャベツ、サトイモ



### 除草剤と展着剤の必要性

- ラウンドアップ、バスタ、サンダーボルト、タッチダウンなどには不必要です。
- プリグロックス、レグロックス、ナブ、アーザラン、MCPPなどは必要です。

### 乳剤と展着剤

乳剤には界面活性剤が入っているため、展着剤は不必要とよく言われます。乳剤の中の界面活性剤は有効成分を水に分散させるためのものなので、基本的には展着剤を加用します。特に濡れ性が中程度あるいは悪い作物には必ず加用します。

